

審査の結果の要旨

氏名 藤川 慎也

本研究は、大規模一般住民調査 (Tokyo Early Adolescent Survey [T-EAS]) のデータにて、親の躰としての体罰と思春期前期児童のいじめ 4 群 (いじめ被害群、いじめ加害群、いじめ加害被害重複群、いじめ非関与群) との関連を調査し、その関連に温かい養育がどのように関与するかを解析したものであり、下記の結果を得ている。

1. 温かい養育の影響を考慮したうえで、高頻度の親の躰としての体罰は、思春期児童のいじめ加害群およびいじめ加害被害重複群のリスク上昇と関連を示した (いじめ加害群: 調整済みオッズ比 = 2.21 [95%信頼区間: 1.24–3.94]、 $p = .007$ 、いじめ加害被害重複群: 調整済みオッズ比 = 2.01 [95%信頼区間: 1.34–3.03]、 $p = .001$)。また、高頻度の親の躰としての体罰といじめ被害群との関連に有意傾向を認めた ($p < .10$)。
2. 温かい養育の影響を考慮したうえで、低頻度の親の躰としての体罰でさえも、思春期児童のいじめ加害群およびいじめ加害被害重複群のリスク上昇と関連を示した (いじめ加害群: オッズ比 = 1.85 [95%信頼区間: 1.31–2.62]、 $p = .001$ 、いじめ加害被害重複群: オッズ比 = 1.48 [95%信頼区間: 1.14–1.91]、 $p = .003$)。
3. 温かい養育の影響を考慮しても、親の躰としての体罰の頻度が増加するに連れ、思春期児童のいじめ被害群、いじめ加害群、いじめ加害被害重複群それぞれのオッズ比の増加を認めた (いじめ加害群: 調整済みオッズ比 = 2.21 [95%信頼区間: 1.24–3.94]、 $p = .007$ 、いじめ加害被害重複群: 調整済みオッズ比 = 2.01 [95%信頼区間: 1.34–3.03]、 $p = .001$)。
4. 温かい養育は、親の躰としての体罰と思春期前期のいじめとの関連を軽減も増強もさせなかった。

以上、本論文は大規模一般住民データにて、温かい養育の影響を考慮したうえで、親の躰としての体罰と思春期前期児童のいじめへの関与との関連を明らかにした。本研究結果は、新規性が高く、養育や教育、メンタルヘルスの分野に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。